

私のカルテ

No 4 1 1

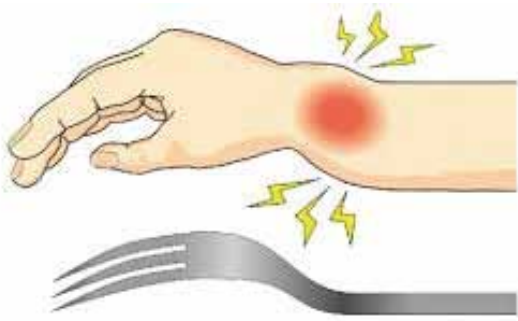
とうこつ えん いたん こっせつ
橈骨遠位端骨折津島市民病院
整形外科医師のりたけひろかず
則竹洋和

橈骨遠位端骨折とは

手をついて転んだ時に、前腕の2本の骨のうちの親指側の骨(橈骨)が手首(遠位端)で折れる骨折のことを言います。転倒や転落による受傷がほとんどであり子どもから高齢者まで、幅広い年齢層に認められます。

症状

手首の付け根に痛みが出て、手首を曲げることや手のひらを返す運動が出来なくなります。また腫れと熱をもちます。手の向きがおかしいと言う患者さんもいます。フォークを伏せて置いたような変形が見られることが多いです。また、折れた骨や腫れによって神経が圧迫され指がしびれることもあります。



原因と病態

特に閉経後の中年以降の女性では骨粗鬆症で骨が脆いので、簡単に折れます。若い人や子どもでも高い所からの転落や、交通事故などで強い力が加わると起きます。前腕のもう一本の骨である尺骨が同時に折れる場合もあります。橈骨の手のひら側を走っている神経が、折れた骨や腫れで圧迫されると、親指から薬指の感覚が障害されることがあります。

診断

レントゲンやCT検査で診断します。折れ方で治療法が異なるので、骨折線が一本だけ(単純骨折)か、いくつかの小さい骨に割れて不安定(粉碎骨折)か、骨折線が手首の関節に及んでいる(関節内骨折)かを確認します。

治療

原則として、ズレの少ない骨折は、ギブスなどの外固定による保存療法が行われます。ズレを伴う骨折の場合は、手術による治療が必要になります。

手術では、金属のピンを刺して骨折部を固定する『経皮的鋼線刺入法』や、骨折部を直接メスで開けて金属のプレートで固定する『骨折観血的手術』があります。

子どもの場合は、骨折部の整復が不完全でも自力での矯正力が強く、骨のくっつき(癒合)も早いので手術を必要としない場合もあります。



橈骨遠位端骨折 手術前(左)と骨接合術後(右)

最後に

橈骨遠位端骨折は子どもから高齢者で最も頻度の高いものの1つです。

もし骨折したまま放置すると骨が変形したまま固まり、痛みだけではなく痺れや動かなくなるなど2次的障害が出る可能性があります。そのため早期に病院を受診して診断し治療に進みしっかり治すことが大切です。